

私は野球部に所属していたため、平日は約2~3時間、休日は6時間程しか勉強時間は確保できませんでした。他の生徒と勉強時間を比較したとき明らかに少ないと思います。また部活もあったため課外はあまり取ることはできませんでした。課外がとることができない分、私はわからないところは積極的に先生に聞きに行きました。部活終わりに勉強するのはとても辛いため、1、2年生のころは勉強習慣を身につけるために自分の好きな科目から取り組み、慣れてきたら苦手な科目に取り組むようにしていました。しかし、私は最も古典が苦手だったのに古典は全然やらずしっかりと取り組み始めたのは高校3年生になってからでした。高校3年生になってから高校1年生の勉強をやるのはとても焦りました。そのため好きな科目と嫌いな科目の勉強はバランスが必要だと感じました。そのように1年生の勉強を3年生になってから取り組む私を茨城高校の先生は一から教えてくださいました。何度も同じ質問をしてもわかるまで何回も教えてくださいました。そのおかげで私はMARCHレベル問題までできるようになりました。茨城高校の先生方は多分他のどの高校の先生よりも寄り添ってくれると思います。

高校での3年間は部活の思い出が強く心に残っています。毎週火曜日から日曜日は部活があり、日曜日はほぼ毎週練習試合が組まれていました。私は1年生のころから多くの試合や大会を経験させてもらいました。そんな野球漬けの日々の中で私は何度も部活を辞めようとしていました。顧問の先生とは何度も進路やケガで悩んでいることを相談しました。顧問の先生は些細なことから大きなことまで親身に相談に乗ってくださったり、反発したりするなど迷惑もかけてきてしまいました。そんな私を見放さずに受け止めてくださったことは感謝しきれません。また、部長の先生にはマナーや礼儀など野球以外のことを沢山教えてもらいました。試合に勝つことはそんなに多くはなかったかもしれませんが、それ以上に私は人とのかかわり方や自分自身の在り方などを学ぶことができ、人間的に大きくなったと思います。高校3年生時のクラスマッチや文化祭は新型コロナウイルスの影響により中止されてしまい残念でしたが、高校2年生の時にいったシンガポールでの修学旅行はたくさんの経験をしました。その中でも現地の方々と直接会話したときにうまく自分の考えを伝えることができず苦労し、もっと英語の勉強をしなければならぬと思い、より一層英語の勉強には熱が入りました。

私は県立の高校を受験しましたが失敗してしまい、部活も勉強もできるということで茨城高校を選びました。また私は他の私立高校のような学力でコースを選択されてしまうようなのが好きではありませんでした。自分よりも勉強ができる人と同じクラスになることで自分に危機感をもたせ、わからないところは友達に教えてもらうことができました。今思うとやはり茨城高校を選んで正解だと思っています。一貫生との関係はやはり私は不安でした。正直に言うと私は一貫生の友達は多くはありません。しかし、これは自分のコミュニケーション能力の不足だと思っています。高入生でも一貫生の友達がたくさんいる人もいました。また、私のとても仲のいい人は一貫生にもいます。一貫生と仲良くできるかどうかは結局自分次第だと思っています。

私は将来、自分で会社を立ち上げ、世界で必要とされる人間になりたいと思っています。そのためには日本にとどまるのではなく世界に視野を広げなければなりません。それを達成するために私は大学に進学したら海外留学をしたいと思っています。大学は自分のやりたい学問を専門的にできるため、大学の4年間という短い期間ではありますが、能動的に課題に取り組み、自分の将来像を明確にできるようにしていきたいです。